

第9回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1. 日 時 平成20年4月25日(金) 16:00~18:10

2. 場 所 市役所10階第5B会議室

3. 議事概要

協議事項 中間報告(案)について

事務局より、中間報告(案)について説明。

【会長】

はじめに4月21日の審議会で出た意見を踏まえた修正・対応について1点ずつ確認した上で、最後にそのほかについて意見があればご発言いただきたいと思えます。

それでは、順番にすすめて行きます。(1)の公共交通についてはどうか。

【委員】

「整備されたネットワークを利活用していくこと」という表現では、「既にあるものを利活用していく」という意味で読まれてしまい、公共交通を読み取るのは難しいのではないかと。ほかは、この記述で良い。

【会長】

「今後は、地域の発展につなげていくように、整備された広域交通ネットワークを利活用することが課題となっています」では如何か。

【委員】

それでよい。

【会長】

文章が繋がらない場合は、発言の趣旨を踏まえて修正をして行きたいと考えている。

次に(2)のスローライフについては、直接的な表現ではないが、意味は十分に汲み取れると思うが。皆さん如何か？

(一同了承)

【会長】

次に（３）の人のネットワークについては、「人的ネットワーク」と修正したが、如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

（４）の人権については、如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

次に、（５）の中核都市についての記述だが、如何か？

【委員】

意見の趣旨がこの記述では伝わりにくいと思う。社会的弱者に目を向け、手を差し伸べて行くという視点を明確にして頂きたいが適当な表現が思いつかない。「都市機能の充実」の意味が不明確であり、市民が福祉的な意味合いを感じ取れるかが心配。「十勝圏の中核都市としての役割～」以下はこれでよい。

【会長】

本日は、「具体的にどのように修正すべきか」ということも合わせて考えて頂きたい。

この案件は、後ほど改めて論議したい。

（６）の見出しをつけることについては如何か？

【委員】

これでよい。

【会長】

（７）のコンパクトなまちづくりについては、如何か

【委員】

これでよい。

【会長】

(8) の教育については如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

次に、(9) の高齢者を外出させることについては如何か。

【委員】

高齢者を外出させるための施策、方策が重要だと考える。その意味で、若干ニュアンスが違う。高齢者本人が健康であることはもとより、交通網の充実など色々ある。

【会長】

「積極的に社会活動に参加」とあるが、これでは不十分か。

【委員】

ここでは、仕組みについて記述されているが、機能について記述されていないという意味ではないのか。

【委員】

社会活動だけでなく、買い物や友達に会うなど日常的に外出することが大事であり、外出したいが移動手段がない、バス停まで遠いから外出できないという人を外出できるようにさせたい。

【委員】

今まで外出しなかった人も外出したくなるような仕組みが必要だということだと思う。「環境づくり」という表現では曖昧になってしまう。

【会長】

「一方で、元気なお年寄りが、生きがいを持ち、いつまでも健康で、仕事や学習活動などを通じ、積極的に社会に参加できる支援が必要です」では如何か。

【事務局】

具体的な表現になると誰が支援するのかという問題が出てくる。

【委員】

移動手段が無い人の行動範囲が狭くなって行くのを広げて行こうということを「環境づくり」という文言で表現したのだと思う。原文が良いと思う。

【会長】

これも、後ほど論議したい。

次に（１０）だが、これは、農業生産以外の機能を総合して「多面的機能」という文言で表現しているが皆さん如何か。

（一同了承）

【会長】

農畜産物の安心安全については、この修正で如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

次に、地産地消については、この修正で如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

（１１）の地元企業の育成・支援だが、この修正で如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

（１２）については、加工の体制を「農業を核として、関連産業が連携して」と表現しているということだが如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

(13)「食」を強調するという意見については、この修正で如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

(14)の観光についての記述は、如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

(15)の観光については、「連携を強めて」という表現だが、如何か。

【委員】

これでよい。

【会長】

(16)の質の高い緑については、如何か。

(一同了承)

【会長】

(17)の「生きる力」については、如何か

【委員】

これでよい。

【委員】

記述の内容に地域性がない。帯広市の総合計画なので「豊かな自然環境を活かした」とか「地域特性を活かした教育環境」といった視点が必要ではないか。「一人ひとりが持つ個性や能力を伸ばすとともに、地域特性を活かした教育環境の充実」という表現は如何か。

【会長】

地域特性という言葉を入れて、帯広の独自性を表していきたいと思う。

【委員】

13ページの下に「いじめ」とあるが、不登校も入れるべき。不登校の生徒は学校生活が終わると引きこもりになる傾向が強い、少子化のなかでこの人たちを社会に活かして行くことが重要だと思う。

【会長】

不登校については、後で論議したい。
次は(18)の大学については、如何か。

【委員】

結構だが、帯広独自の大学ということが読み取れる表現にすべきと思う。高等教育機関の前に「特徴ある」「個性ある」など記述したら良いのではないか。

【事務局】

専門学校、畜産大学、大谷短大もあるので、全体を包含した表現にした。「地域特性」とすると限定的になってしまい、もう少し幅広く捉えていたほうが良いと思う。

【委員】

大学については、いろんな場面で議論されると思うので、そのときに議論してくれば良い。

【会長】

あまり限定的にしないということで、ご理解いただいたということにしたいと思う。
「社会人教育」については、皆さん如何か。

(一同了承)

【会長】

それから(19)の広域連携については如何か。

【委員】

前回言ったのは「文化などの幅広い連携」という意味で、ソフト的な意味で帯広が母都市として連携していく必要があるということである。ここは、「文化・観光など」と記述することが必要と思う。

【事務局】

文化というと内面的な部分もあり、そこまで帯広市が引っ張っていくというのは難しいのではないかと考えている。表現するのであればもう少し具体的なものが必要と思う。そういう意味で「など」という表現になっている。

【委員】

この文章では、そのニュアンスが分からない。ここでは、幅広い文化についての総論を書いて、各論は別に書けば良いだけではないのか？

【事務局】

様々な分野で町村と連携していく必要があるということは認識している。しかし各分野で個々に広域連携を記述していくことはできないので、「めざすまちの姿」の冒頭部分で、「十勝圏の中核都市としての役割を担う」と記述した上で、P15の最後の部分で、「医療や観光などと」という例示を示しながら、「より一層広域的な連携をはかる」という表現としている。

【委員】

文化は個々の内面的な部分があり、行政としてはどこまでできるのか？ある文化組織を帯広市がまとめて行くことができるのか？それはできないのではないかと専門部会で議論があった。自治体経営以外の部分で書けば良いのではないのか？

【委員】

文化については様々な箇所で記述されている。自治体経営だけ記述できないということはないのではないのか。

【事務局】

文化は生活のあらゆる面にあり、文化の焦点をしぼる必要があるものと思う。

【委員】

文化の捉え方を各論で書けば良いだけではないのか？「農業は文化」という意見についても「農業の多面的機能」という表現で意図が伝わるのか。

【会長】

「多面的機能」とは、農業は生産するだけでなく、それ以外の文化の伝承、食育などといった様々な機能があるということである。意図は伝わると思う。

【委員】

それぞれの町村にある地域の文化を帯広が全部引っ張って行くということにはならない。行政がやることを前提に考える必要がある。例示が医療や観光だとイメージがしやすいと思う。文化ではイメージがしにくい。

【会長】

自治体経営分野の中で、話をしているので広域的に連携してやるということになってしまう。もっと良い表現・よい知恵がないのか考える必要がある。ここでは帯広市がやるということと、広域連携の中でやって行くということを分けて考える必要がある。ここで文化が当てはまってくるのかということだと思う。

【委員】

前回、連携というキーワードはここにしかなかった。十勝の教育・文化・スポーツの連携・交流が進むという意味を考えると自治体経営に馴染むとは思わない。

【会長】

その意味では、各論ではなく、めざすまちの姿に記述されるべきものとする。

【委員】

文化にこだわるとすれば、教育・文化のところで広域連携を記述するのが良いと思う。

【委員】

帯広に何でも集約するのではなく、互いに役割分担することも考える必要がある。

【委員】

前回の議論のように、リーダーというよりもコーディネーターが求められているということなのではないか？

【会長】

P5の16行目を、「市民と行政の協働および一層の広域的連携によって」という表現としては如何か？

【事務局】

行政分野だけでなく幅広く連携を図っていくという趣旨で記述したい。

【委員】

行政の連携だけでなく、民間の連携もある。

【委員】

自治体運営に連携の記述を入れると、自治体運営の連携だけになってしまう。

【事務局】

民間の連携については、P 15 の地域社会づくり分野の最後に記述がある。

【会長】

共通の考え方を示すということが重要であり、めざすまちの姿の各論ではなく、前文で記述するというのが各委員の総意だと思う。そのように整理してよろしいか？

(一同了承)

【会長】

先ほどの、(5)の都市機能の充実の部分についてはどうか。

【委員】

先程の整理により、ハードだけではなく、ソフト的な部分も読み取れるのでこれでよい。

【委員】

P 10 (9)だが、「一方で、元気な高齢者が、仕事や学習、趣味などを通して生きがいを持つことができるよう、積極的に社会に参加できる取り組みが必要です」では如何か。行政だけでなく地域や町内会などの様々な方々のネットワークによって高齢者が社会進出できる取り組みが必要だと思う。

【事務局】

「取り組み」をハードもソフトも含まれる「環境の整備」としては如何か。

【会長】

「環境の整備」で良いか？

(一同了承)

【会長】

以上で4月21日の発言については、結論が出たということになるが良いか？

(一同了承)

【会長】

全体を通じて何かないか。

【委員】

13ページのいじめのところを「不登校・いじめ」としてほしい。

【事務局】

不登校を入れるのは問題ないが、その後の記述が合わないので、事務局の方で文言を調整させて頂きたい。

【委員】

いじめ・不登校の順番が一般的ではないか。

【委員】

不登校の方が重要だと思っているが、順番はどちらでも良い。

【委員】

P3のネットワークの進展に、インフラの補修ということを入れて欲しい。
それから、めざすまちの姿の見出しの語尾を「～のまち」としては如何か？
また、時代潮流の順序とめざすまちの姿との順序が合っていないような気がするが
良いのか？

【会長】

時代の潮流は日本全体の流れを記述するところだが、「めざすまちの姿」は、帯広市としての地域的な視点も含まれているので、時代の潮流と1対1の関係にはならない。

【事務局】

時代の潮流は、潮流として課題整理させていただき、めざすまちの姿は、それ以外の帯広市の個別な課題も加えて記述させていただいたので順序が必ずしも一致しない。

表題の「～のまちづくり」としなかったのは、中間報告なので、完成されたイメ

ージを持たれない方が良いと考えた。

維持補修については、P6の(7)で「蓄積された都市基盤を有効活用した」という部分で考え方を記述してある。

【委員】

インフラの補修というのをどこかに入れて欲しい。

【会長】

新たなものを次々と造っていくのではなく、造ったものを維持管理しながら活用していくことが重要だということだと思う。

【事務局】

13ページの4行目「既存の都市基盤の有効活用、～」のところに「維持補修」という表現を入れていきたい。

【会長】

細かな文言整理は残っているが、中間報告の何処に記述するのかということは整理できたと考える。そういう捉え方でよいか？

(一同了承)

【会長】

残された細かな文言整理は、会長と事務局で整理させていただきたいと考えるが如何か？

(一同了承)

【会長】

では、そのように作業をすすめ中間報告としていきたい。

【事務局】

この後、会長と文言を調整した上で、中間報告の成案を委員の皆さんにお送りし、5月19日に会長から市長に報告書を渡していただいた後、ホームページ、コミセンで公開させていただく。

中間報告決定後は、中間報告の「まちづくりの分野別の方向性」で抜けている部分、土地利用、人口、計画の評価などについて主に議論していただきたいと考えて

いる。各専門部会に分かれて議論していただきたいと考えているが、具体的な進め方は改めてお示ししたい。

また、次回の審議会は、5月を予定しているが、個別の日程については後日、開催案内を送付したい。

以上